

フォレストニュース

植林が地球を救う
平成25年(2013)8月10日
No. 68
発行 高津啓洋

ニームの木を 製品開発へ

村の薬局と言われるニームの木を大いに活用して、様々な製品研究がされています。開発を担当しているのは、農業大学を卒業した山口さんです。一つには、レダで



土着菌を使ったぼかし作り

深刻な蚊の防除、また農業に有効なぼかし、さらにはニームケーキを土地改良として漉き込むなどです。

また、ニームを入れた、お菓子のクッキーやニームの石鹸、お風呂の入浴剤にも、お肌すべす



ニームとユーカリを使って蚊取り線香の原料作り



蚊取り線香

べです。少し苦みがありますがすっきりしたニーム茶など、若い力で開発しています。さらに長期の滞在者による若い人たちの力を結集できたらと期待されています。

ドンダリの ポット苗づくり

8月1日、ボランティアア・ドンダリの森と地球の緑を守る会が協力し、ドンダリのポット苗作業、さらに花いっぱい運動の一環としてヒマワリの花植え作業を行いました。この日は125ポット苗をつくりました。ちなみにこのドンダリは会員の小田文雄（当会ホームページ作成を担当）さんが昨年拾ってきてくれたものです。

午前中に調布の市民広場で作業を行い、地域の集会所に移動し持ち寄ったお弁当を食べながら、午後2時まで活動状況の経過及び報告などを話し合いました。

参加者は ポット苗づくり。堀



本さん、奥平里美さんとお母さん、中田欣宏さん。報告会には中田育子さんとドンダリの会を初期から立ち上げてきた、中野京子さんが加わりました。

ドンダリの会は、中田育子（3年半前に亡くなりました）さんが出発させ発展させてきました。



その後、ご主人とお子さんによって今日まで、継続されてきました。今回はこの活動の広がり可能性を湘南支部の奥平さんに知ってもらいたいと、奥さんの育子さんがされてこられたことを説明しながら詳細な報告をしていました。